

3. 施設敷地緊急事態での輸送能力の確保

- ✓ 必要となる輸送能力の確保（自治体、社会福祉施設、バス会社、電力事業者等）が必要。

⇒「柏崎市及び刈羽村における施設敷地緊急事態での輸送能力の確保」を整理。

< 柏崎市における施設敷地緊急事態での輸送能力の確保 >

	車両台数			備考
	バス	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
(A) 必要車両台数	107台	14台	89台	
(B) 確保車両台数	計107台	計14台	計89台	
確保先	かしわぎ 柏崎市の社会福祉施設 (9施設)	2台	—	保有車両台数 (社会福祉施設) バス2台 福祉車両(車椅子)19台
	バス会社(新潟県内)	105台	—	保有車両台数903台
	タクシー会社(新潟県内)	—	—	保有車両台数 福祉タクシー:88台、UDタクシー:180台
	東京電力ホールディングス(株)	—	14台	保有車両台数 福祉車両31台(ストレッチャー、車椅子兼用) 福祉車両(ストレッチャー、車椅子兼用)31台を 活用した乗り合わせや段階的な避難により、 必要な輸送能力(延べ43台)を確保。

< 刈羽村における施設敷地緊急事態での輸送能力の確保 >

	車両台数			備考
	バス	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
(A) 必要車両台数	28台	4台	61台	
(B) 確保車両台数	計28台	計4台	計61台	
確保先	かりわむら 刈羽村内の社会福祉施設 (2施設)	—	—	保有車両台数 (社会福祉施設) 福祉車両(車椅子)3台
	バス会社(新潟県内)	28台	—	保有車両台数903台
	タクシー会社(新潟県内)	—	—	保有車両台数 福祉タクシー:88台、UDタクシー:180台
	東京電力ホールディングス(株)	—	4台	保有車両台数 福祉車両31台(ストレッチャー、車椅子兼用) 福祉車両(ストレッチャー、車椅子兼用)31台を 活用した乗り合わせや段階的な避難により、 必要な輸送能力(延べ5台)を確保。

※ 数字は現段階で地方公共団体が把握している暫定値。

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合など、関係自治体の要請により実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）が必要に応じ支援を実施。

Ⅱ. PAZ 内の全面緊急事態における対応について

○全面緊急事態で必要となる輸送能力及びその確保

新潟県実施のアンケート調査の結果より、自家用車により避難する PAZ 住民は 84.7%、バスによる避難が必要な PAZ 内住民は 15.3%となった。

- ▶ 全面緊急事態で必要となる輸送能力は、自家用車で避難できない住民は、
 - ・ 柏崎市：合計 2,309 人分、バス 55 台。
 - ・ 刈羽村：合計 688 人分、バス 18 台。
- ▶ 全面緊急事態発生時には、新潟県内のバス会社が保有する車両により、必要車両台数を確保。車両及び運転者については、新潟県バス協会等の協力により、更に余裕を持った台数・人数を確保。

1. 柏崎市

<全面緊急事態で必要となる輸送能力>

	想定対象人数	必要車両台数	備考
自家用車で避難ができない住民	2,309人	55台	バス1台当たり45人程度の乗車を想定

<全面緊急事態での輸送能力の確保>

		確保車両台数		備考
		バス		
(A)必要車両台数		55台		
(B)確保車両台数		55台		
確保先	バス会社(新潟県内)	55台		保有車両台数 903台

※ 数字は現段階で地方公共団体が把握している暫定値。

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合など、関係自治体の要請により実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）が必要に応じ支援を実施。

2. 刈羽村

<全面緊急事態で必要となる輸送能力>

	想定対象人数	必要車両台数	備考
自家用車での避難ができない住民	688人	18台	バス1台当たり45人程度の乗車を想定

※数字は現段階で地方公共団体が把握している暫定値。

<全面緊急事態での輸送能力の確保>

		確保車両台数	備考
		バス	
(A) 必要車両台数		18台	
(B) 確保車両台数		18台	
確保先	バス会社(新潟県内)	18台	保有車両台数 903台

※ 数字は現段階で地方公共団体が把握している暫定値。

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合など、関係自治体の要請により実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）が必要に応じ支援を実施。

— 以上 —